

編集室紀行

大阪府立大学看護学部で タブレット端末を用いた 電子教科書の実証実験始 まる

大阪府立大学看護学部では、2007年に日本e-Learning大賞を受賞した学習支援システム“CanGo”を確立するなど、eラーニングへの本格的な取り組みが評価されてきた。そんななか、タブレット端末を利用した電子教科書の実証実験が、10月よりスタートした。その概要を、同大の中村裕美子教授に語っていただ



いた。

「“CanGo”に蓄積された本学オリジナルの事例教材や看護技術映像、知識カードなどの関連教材は、今まではPCでのみ利用可能でした。実習施設など学外でも使えるモバイルツールとしては、大学が学生に貸与した携帯端末機(PSP(ソニー)使用のデジタル看護辞典)に限られていました。

今年度、教育のICT化を念頭に、シャープ(株)の協力により、大学からタブレット端末“GALAPAGOS”が学生に提供されることになりました。そこで看護学部では、今まで学内サーバに保管していた“CanGo”のコンテンツをタブレット対応に変更してインストールし、加えて医学書院とメディカ出版の教科書をPDFファイルで納め、学生に持たせました。今回は実習中の学習支援ツールとして電子教科書がどこまで活用できるのかを検証するための実証実験で、10月から来年7月まで、3期に分けて行います。

教科書データをインストールすることで、実習にもっていく資料が物

理的に軽くなったのはもちろん、“CanGo”のコンテンツをインターネット環境が利用できない実習施設でも見ることができたり、検索機能により関連内容の比較が容易になったりという効果が見られます。

まだ始まったばかりなので、評価できる段階にありませんが、学習支援環境の充実やタブレット端末使用による既習内容の補完、事例学習と臨地実習を結びつけることによる思考力、判断力の強化などが期待されます。

今回の実験では、教科書をタブレット端末に収めたという点で新しいものの、本学に“CanGo”という蓄積された学習支援素材があったからこそ、大きな教育効果が期待できる部分があります。実験終了後の評価にもよるでしょうが、ただ、教科書を電子化するだけでは、あまり意味がありません。独自のコンテンツを開発しつつ、学習支援ツールとして発展させていくことが重要なポイントではないでしょうか」

(聞き手：本誌編集室)